

9つのキーワード

1 許される時間帯

午後10時前まで深夜時間順守。
年齢の考慮

2 特別な事情

祭りや祝いなど非日常性。
また、ひとり親等の様々な家庭の事情

3 親・家族の意識

親の意識を高める、親に対する教育を行う

4 子の成長への影響

睡眠不足、生活リズムの乱れ、
健康への悪影響、成育への害、タバコの害等

5 子どもへの悪風感染

酒・タバコ及び飲酒の場へ馴染みやすい、
大人・親の醜態にさらされるなど

6 事業主への要望

子連れ利用時間の制定、
ポスターの掲示及び音楽等での案内
▼現時点で事業所が取り組んでいること
・利用時間案内の掲示(例:お子様連れは午後
9時までの入店となっております)など
・子連れのお客さんへの対応として、
入店時に利用時間の案内及び
店内での声掛け
・禁煙席を設けている

7 啓発策

ポスター・標語・CM等での啓発活動、
優良店・協力店へのステッカー利用など

8 協力要請店

スーパー・コンビニエンスストアも
規制対象、酒を提供する店など

9 行政への対応要望

宣言及び条例制定、県レベルでの取り組み、
子守制度のシステムづくりなど

円卓会議の総評

市民・事業所・行政が 協力しあって よりよい地域づくりを

沖縄国際大学 名誉教授
山入端 津由 教授

臨床心理学・犯罪心理学を専門分野とし、浦添市では「青少年問題・いじめ問題対策連絡協議会」会長や「子ども青少年運営協議会」委員を務める。



5 つの中学校区の市民および事業主による円卓会議で、出席者が「深夜の子連れ飲食」についてどう思っているかを「9つのキーワード」にまとめました。キーワードを読み解くと、円卓会議の出席者たちは、子どもの成長に影響がある深夜に子どもを飲食店に連れていくことは、子どものためというよりも大人の都合であると考えており、親が子どもへの教育的配慮をいかに行うのかが課題になっていることがわかります。また、事業主側への要望として「子連れの利用時間」など、様々な善処策が具体的に提案されています。さらに、行政側への要望として、深夜の子連れ飲食問題について宣言し、周知徹底する施策、条例を作って、より積極的な対策をとることの提案もなされています。



▲円卓会議参加者と意見交換する山入端教授

「深夜の子連れ飲食」の問題を話し合うことで、わが浦添市において飲食店の利用客である市民と、経営をする事業主とが互いに協力しあい、子どもたちにとって何が一番幸せなのかを考えていくことが大切だと感じます。

早寝早起きが 子どもたちの 教育や成長には必要

深夜の子連れ飲食の制限については、未来ある子どもたちのために検討すべき事だと思えます。沖縄県青少年保護育成条例の深夜とは、午後10時～翌4時となっています。この時間に育ち盛りの子どもの寝ずに外食してしまうと、食べ物の消化に悪く眠くなるタイミングもずれてしまいます。そのような習慣が身につくと、朝が起きられなくなり朝食も取らないで登校してしまうケースが出てくると思います。

食卓は大切な教育の場です。昔は祖母の知恵袋や祖父の自慢話等の話を食卓で何気なく聞いていて、いつの間にか子や孫たちは学んでいった気がします。早寝早起き朝ごはんが子どもの教育や成長には大切で、会話をしながら楽しい食事を家でとることが良いと思います。

長い目で見た場合に子どもたちにとって本当に良い事は何でしょうか。今こそ大人が子どもたちのことを良く考え、お手本となって大切なことを教えていく時ではないでしょうか。



浦添市在住の保護者
宮里 今日子 さん

道徳規範の強化ではなく 生活基盤の強化を

深夜の子連れ飲食が良いのか悪いのかという個人の価値観に依存する道徳性が強いこの問題に、行政が入り込むべきではないと考えます。

深夜に子連れで飲食する人達の多くは道徳心が欠如しているわけではありません。その背景には労働環境や生活習慣などいろいろな事が影響を与えています。行政がやるべきことは、そういった人たちの雇用形態や就労環境、子育て支援などの生活基盤を整える政策を考えることです。

私が一番懸念していることは、深夜の子連れをとがめられると考えた親が、子どもを家に置いていくことです。沖縄は圧倒的

困難な状況を 抱えている人たちが 生きやすい社会を考えたい

子どもの心身の発達に深夜の子連れ飲食は良くない事だと思えます。けれども色々な意見もあると思えますが、条例や罰則で取り締まりのようにするのが良いのか、本当は根深い重要な問題や課題が奥底に潜んでいるのではと思ったりします。なぜ深夜まで子連れなのか、時々厳しい目で見られることもありますが、困難な状況にあって誰にも相談できずに孤立しているのかな、親族とも疎遠になっているのかな、なども想像したりします。

夜遅くまでの子連れ飲食、私も好みではないですが、禁止や罰則は色々な状況にある人たちを更に追い込んでしまうのではないかと思います。「沖縄一福祉のまち宣言をした浦添市」、困難な状況を抱えている人たちも生きやすいあり方を、皆が考えられると良いと思います。

子どもを守る大人たち、大人を支える市民、深夜の子連れ飲食をしなくてもよい社会を考えていきたいですね。



森の子児童センター
大城 喜江子 館長

にネグレクトが多い県です。暮らしが何も変わっていないのに道徳規範だけを強化してしまうと、厳しい暮らしをしている人たちがますます苦しい場所に追い詰められていきます。巡り巡って結局は子どもを危険にさらすということになりかねません。

浦添市が条例で規制するというのではなく、なぜ深夜に子連れで飲食するのかの実態を調査するなどし、「みんなが幸せに子育てできるような社会」を実現するために、市民の皆さんと一緒に考えていくことが大事だと思います。



琉球大学教育学研究科
上間 陽子 教授

みんなで
考えよう

「深夜の子連れ飲食」について語る
深夜に子どもを連れて飲食店に行くことを制限することについて、いろいろな立場の視点から、子どもたちと関わり深い皆さんから声を聞きました。

たくさんのご参加
お待ちしております!



※写真はイメージです。

問い合わせ | 子ども青少年課
☎(内線6614, 6615)

大円卓 会議

参加自由・無料

あなたの声が進む道が決まる!!

「深夜の子連れ飲食の制限について」

飲食店関係者、市内小中学校保護者、福祉関係者、学校関係者、学識者が集まり、今までの円卓会議での意見等も踏まえ議論し、今後の方向性を導き出したいと思います。

日時 令和元年11月26日(火) 午後6時30分開始

場所 アイム・ユニバース てだこホール 小ホール